

ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
 DIRECTOR PRESIDENTE
 RAUL M. TAKAKI
 JORNALISTA RESPONSÁVEL
 Aldo Shiguti, MTb 36.982
 Rua da Glória, 332 - Liberdade
 CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
 Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeishimbun.jp

7日デモの煽りで暴走

全国155州で州道閉鎖

大統領も解除呼びかけ

7日の独立記念日のブラジルでの抗議活動に参加したボルソナロ大統領支持派のトラック運転手たちが、デモの後も三権広場に居残り、最高裁への侵入を試みたりしている。それに影響され、全国155州でトラック運転手たちが州道を封鎖して問題となっている。ボルソナロ大統領は経済への影響を恐れ、運転手たちに封鎖解除を命じているが、それすらかまわず暴走している。9日付付字紙が報じている。

経済悪影響に懸念

事の発端は、7日にブラジリアの三権広場の前で抗議活動に参加したトラック運転手たちが、最高裁への侵入を試みたりしている。それに影響され、全国155州でトラック運転手たちが州道を封鎖して問題となっている。ボルソナロ大統領は経済への影響を恐れ、運転手たちに封鎖解除を命じているが、それすらかまわず暴走している。9日付付字紙が報じている。



ゼー・トロウオン容疑者 (Twitter)

集中治療室の占有率改善

死者の7日間平均500人切る

オズワルド・クルス財団 (Fiocruz) が8日、成人向け集中治療室 (UTI) の占有率 (使用率) が改善し、連邦自治体単位では90%、州都では85%が60%以下になったという報告書を発表した。同日付付字紙が報じた。また、同日は死者の7日間平均が昨年11月以来初の500人以下となった。Fiocruzによると、6日時点のUTI占有率が80%を超えた臨



コロナ感染者用の集中治療室 (Maurício Vazilio/Governo do Rio de Janeiro)

界域にあるのはロライマ州の82%のみだ。リオ州は72%から中程度の警戒域の66%に下がった。また、中程度の警戒域だったゴイアス州とロンドニア州は、52%と47%となり、警戒域を抜出した。また、占有率が上昇したペルナンブコ州とエスピリトサント州も、43%と48%で、病床にゆとりを残している。その他の連邦自治体は連邦直轄区とパラナ州

休日明けの影響は考えうるも

不可欠としている。Fiocruzは感染

東西南北

レイトス・インフラ相も、これが大統領本人のものとして認めた。トラック運転手たちに封鎖を呼びかけ、現在、連邦警察から指名手配中のマルコス・アントニオ・ペレイラ・ゴメス (通称ゼー・トロウオン) 容疑者は8日夜、逃走先からこの反応なのかと失望の録音を発表。8日未明には、本日に封鎖解除を求めると、明確な日時も入れたビデオを発表すること、大統領支持派で連署の標的となっていた人物の保護を要請した。同氏は、「政権擁護のデモを計画したことで自分の人生は破壊した」とも語っており、9日午後を解除するよう運転手たちと話し、「今、メキシコにお

大統領発言

7日の独立記念日のボルソナロ大統領の言動に、最高裁のルイス・フクス長官が8日、抗議を呼びかけた。また、上下院議長と連邦検察庁長官も、7日にこの反応とされる言動をこの

出た。この際、ポオ州では、リオ市が57%、南大河州が51%だった以外は皆50%未満となっている。州都では、リオ市が94%、ボア・ヴィスタ市が82%で逼迫した状態にある。クリチバ市は75%が65%、ゴイアニア市は69%が65%、ポルト・アレグレ市は66%が61%、エスピリトサント州も、43%と48%で、病床にゆとりを残している。その他の連邦自治体は連邦直轄区とパラナ州

スト参加者には7日夜から運行停止を決め込んだタンクローリーの運転手たちも混じっており、ガソリンスタンドでの燃料枯渇や、商品の配送停止などの混乱は、9日まで続いていた。トラック運転手による抗議行動といえは2018年5月に起こったトラック・ストが記憶に新しいが、今回はそのときと異なり、トラック組合は何の指令も出していない。サンパウロ周辺地域貨物輸送業者組合 (S et c e b) のアントニオ・シケイラ副会長は、「ストなどフェイクニュースだ」と不快感を示した。このほか、トラック業界でも一部運転手たちの暴走行為に不満の声が聞かれている。

最高裁長官も猛反発

7日の独立記念日のボルソナロ大統領の言動に、最高裁のルイス・フクス長官が8日、抗議を呼びかけた。また、上下院議長と連邦検察庁長官も、7日にこの反応とされる言動をこの

市「世界的な情報誌が選出

聖市が世界的に有名な情報誌から「世界で31番目に魅力的な都市」として紹介されたこと

大統領発言

7日の独立記念日のボルソナロ大統領の言動に、最高裁のルイス・フクス長官が8日、抗議を呼びかけた。また、上下院議長と連邦検察庁長官も、7日にこの反応とされる言動をこの

大統領発言で2千億の損失

6日の取引終了時のサンパウロ株式市場は、公開株式の総額が5兆2570億レアルだった。8日は5兆610億レアルで終わった。損失額が特に大きかったのは、ペト

市「世界的な情報誌が選出

聖市が世界的に有名な情報誌から「世界で31番目に魅力的な都市」として紹介されたこと

大統領発言

7日の独立記念日のボルソナロ大統領の言動に、最高裁のルイス・フクス長官が8日、抗議を呼びかけた。また、上下院議長と連邦検察庁長官も、7日にこの反応とされる言動をこの

大統領発言で2千億の損失

6日の取引終了時のサンパウロ株式市場は、公開株式の総額が5兆2570億レアルだった。8日は5兆610億レアルで終わった。損失額が特に大きかったのは、ペト

市「世界的な情報誌が選出

聖市が世界的に有名な情報誌から「世界で31番目に魅力的な都市」として紹介されたこと



8日のフクス最高裁長官 (Marcelo Camargo)

命令に従わない行為は責任の処罰対象となる」として、名前こそあげなかったが、ボルソナロ大統領の7日の言動が責任に及ぶ可能性をほのめかした。

市「世界的な情報誌が選出

聖市が世界的に有名な情報誌から「世界で31番目に魅力的な都市」として紹介されたこと

ニッケイ新聞出版、宮坂人財財団・アリアンサ日伯文化連盟協賛
 ブラジル版のよは販売開始!
日ポ生活会話ガイド
o Jeitinho no Japão para os brasileiros
 ブラジル人のためのニッポンの生活ガイド
 日本語とポルトガル語の勉強にすぐ便利
 面白くて分かりやすい
 画像付き日常生活の会話
 カテゴリー別、辞書付き
 日本の生活ガイドにも

今週末に卓球大会開催
スポーツイベント再開へ

Torneio da Amizade TTV Kochi
CATEGORIAS, DATAS e HORÁRIOS
11 de setembro de 2021 (sáb.)
12 de setembro de 2021 (dom.)
INSCRIÇÃO R\$ 30,00 + 1 kg de alimento não perecível

毎日新聞 山本氏帰国へ
コロナ禍でもフアベール等取材

毎日新聞社サンパウロ支局の山本太一(41歳、愛媛県)が10月から埼玉支局へ異動するにあたり、8月31日、帰国挨拶に来社した。

山本さんは2017年9月に支局長として赴任。前任者の朴鐘珠支局長に続く2代目の支局長だ。駐在員として



山本さん

はブラジル初赴任だが、2000年頃にブラジル日本交流協会の制度を通じてマナウスで1年間研修した経験を持つ。4年間のうちで最も印象深かった出来事を探ると、山本さんは「コロナ禍のブラジル」をあげ、取材を重

にほんご教育おしゃべり会開催
「今困っていること、相談したいこと、自分の授業、学習者、学校についてなど、みんなで話しましょう」

を対象にZOOM上で開催する。参加人数は80人まで。言語は日本語またはポルトガル語で実施する。同会ではグループディスカッションや、日本語教師への「日本語教育実情調査」の中間報告を行う。

にほんご教育おしゃべり会
Roda de Conversa sobre o Ensino da Língua Japonesa
「にほんご教育おしゃべり会」告知画像 (ブラジル日本語センター提供)

女子の部(賞金付き)
参加条件: 初心者から上級者まで参加可能
シルバークатегория
参加条件: Circuito FedespのCクラスまたはDクラスに所属し、一定の技術評価がある人

ACUPUNTURA
Dra. MONICA Y. MORISHITA
Biomedica 生物医学
Pós-Graduação em Acupuntura
大学で針灸学を専攻いたしました



樹海
ボルソナロ大統領が最高の判断を不服として、9月7日の独立記

ボルソナロがチャベスになれない理由
最高裁を味方につけたチャベス氏は議会で自身に不利な法案を通過させ、最高裁がそれに對して「違憲」などと難癖をつけることはおぼろげに

オーリヤ
パンデミックが継続している現在、どこもかしこもマスク着用とアルコール消毒で対策を行う。仕方がないながらも、本音ではウンザリするオーリヤ

オーリヤ
パンデミックが継続している現在、どこもかしこもマスク着用とアルコール消毒で対策を行う。仕方がないながらも、本音ではウンザリするオーリヤ

そこは対策せんのかい!
「ホット」と胸をなでおろす安堵

各議題の審議の結果はどのように議決されたかは知る由も無いが、アガリクスの生産も流通も既に破局を迎え、誰も観客の居ない舞台で今更一體誰に向けて、また何の為に反応の無い決議事項を披露したのか、単に世間体を憚っただけの馬鹿げた無為な協議会の一幕であった。

キノコ雑考
ブラジルに於けるキノコ栽培の歴史とその背景
元JAIDO及びJICA 農水産専門家 野澤弘司

外出者が戻ったら2週間隔離

援協 高齢者施設の感染対策を聞く

運動増やす「イペランジアホーム」 職員講習徹底の「あけぼのホーム」

サンパウロ日伯援護協会（税田パウロ清七会長）は2014年、福祉事業に特化した組織を構成するため「日伯福祉援護協会」を設立した。同協会傘下の4カ所の高齢者養護施設のうち、今回はスザノ市にある「イペランジアホーム」とグアラリヨス市の「あけぼのホーム」の新型コロナウイルス感染対策と、パンデミック（世界的大流行）以降の両ホームでの出来事と対応等についてそれぞれ関係者に取材した。

イペランジアホーム感染対策

「パンデミックが始まって、消毒用アルコールも高値。当初は、マスクや手袋、手で入りにくく、本当



イペランジアホームの作業療法士の佐野さんと三島施設長（提供写真）

に大変でした」。こう語るのは、1983年に聖州スザノ市に開設されたイペランジアホームの三島セシル施設長だ。幸いにもコロナに感染した入居者は誰一人としておらず、入居者たちは家族との面会が制限され、不安やストレスが募る中、職員とスタッフの献身的な介護と対応が功を奏したと語る。三島施設長と作業療法士の佐野ミチエリさんに、同ホームでの感染対策を聞くと、感染者ゼロの苦労と関係者への感謝の言葉が伝わってきた。比較的自立できている

新型コロナ感染対策

PCR検査とワクチン接種



ワクチン接種を受ける入居者（提供写真）



PCR検査を受ける入居者（提供写真）

施設内活動



施設内で体操を行う入居者たち（提供写真）



フェスタ・ジュニーナで体操する入居者たち（提供写真）

日本政府支援事業 ◆サンパウロ日伯援護協会 ◆コロナ感染防止キャンペーン

結果にもつながっているようだ。

一方、特別措置として入居者がどうしても外出しなければならぬ場合は、ホームに戻る際にPCR検査を行い、入居者とは離れた特別な部屋（部屋）で2週間の隔離措置を義務付けている。隔離中も、5日後にはさらにPCR検査を行うなど、徹底した感染対策を取っているという。

施設内活動を増加

入居者のストレスや不安を解消するため、ビンゴ大会や毎月の誕生日会のほか、体操も一日に3回行うなど、施設内でのレクリエーション活動を増やした。作業療法士の佐野さんによると、イベントを増やすことで入居者とコミュニケーションをはかることも、日本やブラジルの祝祭日に合わせて「特別料理」の食事会も実施。

今年2月の節分には「恵方巻」を3月には中止となったタリヤ祭りの代わりに「夏祭り」と称して職員らが浴衣を着用して「そうめん流し」を

の心の支えになったという。

感染者ゼロに感謝の気持ち

三島施設長は「この約1年半のコロナ禍で、入居者の方々に悲しい表情になる方が増えました。そうしたストレスや不安を解消するためにどうすればいいかと皆で考え、本気で取り組んで、でも入居者の感染ゼロができたことが本当に良かった。これからも感染予防を続けていくことが、一番大事なことを表していた。

あけぼのホーム感染対策

自立して日常生活を営む高齢者の健康面の研究や医学生への指導を行なっているほか、自分の診療所でも活動している。同医師によると、高齢者の定義として日本などは65歳以上、先進国は「65歳以上が対象」となっているが、ブラジルでは「60歳以上」とされており、「年齢を取るとに病気の発生のリスクが多くなる」と、高齢者の予防を行うことが老人医学の基本方針だという。

「密状態」の回避

あけぼのホームでは、昨年3月のパンデミック発生以降、「密状態」を避けるために入居者を最大5人のグループに分けた。また、家族との面会の面会が中止された中で、理学療法士の指導等により、コロナ以前よりも入居者の運動量を増やすことを実践している。



あけぼのホームで活動する平塚医師（提供写真）

ことだと思つていまして」と述べ、関係者への感謝の気持ちを表していた。

「あけぼのホーム」では今年6月現在、女性35人、男性8人の計43人が入居している。平均年齢は88歳で、計73人の職員（うち23人は派遣職員）が日々対応している。同ホームに2008年から週2回、老人医学専門医として訪問している平塚マルセウ医師は、通常はUSP（サンパウロ大学）のクリニカス病院

本記事は、日本政府支援事業に基づき、サンパウロ日伯援護協会が実施している「コロナ感染防止キャンペーン」の一環です。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍る。大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしごでは、長時間の食事によって、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染の感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、経路オクなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、感染リスクが高まる。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



5人の感染も隔離で回復

そうした中、同ホームで入居者が感染したケースが5件あったという。最初は昨年5月ごろ、周辺地域のSUS（統一医療システム）病院でたまに診察を受けた入居者の感染が判明。同時期にロータリークラブのキャンペーンで入居者と職員

大切なワクチン接種

平塚医師はあけぼのホーム内での感染対策として「外部との接触を極力避けること」「職員およびスタッフのN95マスク

全員に行われたPCR検査により、3人の入居者の陽性反応が見つかり、すぐさま同施設内の特別部屋に隔離したが、当初は3人も無症状だったという。さらに、翌6月ごろに5人目の入居者の感染が見つかり、隔離措置によって結局、5人全員が回復し、現在は問題なく日常生活を続けているという。